

科目名 在宅看護概論 時間割表記名 在宅看護概論		配当時期 2年次前期 単位数 1単位 時間数 30 時間(16 回)	講義担当者 生野 繁子 田中 裕貴
事前学習内容 1.テキストの該当部分を読んでおくこと。 2.自分自身が育った地域の現状(人口・世帯数・高齢化・学校の変化等)を把握しておくこと。			
授業目標 1. 地域・在宅看護の歴史や社会的動向を理解する。 2. 地域・在宅看護の対象について理解する。 3. 地域・在宅看護の活動の場について理解する。 4. 地域・在宅看護を取り巻く保健医療福祉資源とそのシステムについて理解する。 5. 地域・在宅看護を取り巻く現状と問題を理解し、地域・在宅看護における看護師の役割と機能を理解する。			
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1 2	1. 人々の暮らしと地域・在宅看護 1) 人々の暮らしの理解 2) 地域・在宅看護の役割(基盤となる考え・求められる役割) 2. 暮らしの基盤としての地域の理解 1) 暮らしと地域 2) 暮らしと地域を理解するための考え方 3) 地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義	テキスト① はしがき・序章を読んでくること
	3. 地域・在宅看護の対象 1) 地域・在宅看護の対象 2) 家族の理解 3) 地域に暮らす対象者の理解と看護	講義 ディスカッション 自分が育った地域の現状を紹介	テキスト①
3 4	4. 地域における暮らしを支える看護 1) 暮らしを支える地域・在宅看護 2) 暮らしの環境を整える看護 3) 広がる看護の対象と提供方法 4) 地域におけるライフステージに応じた看護 5) 地域での暮らしにおけるリスクの理解と災害	講義 ディスカッション 自分が育った地域のリスクと防災について	テキスト①
	5. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 1) 介護保険・医療保険制度 2) 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制	講義	テキスト①

5	6. 訪問看護の制度	講義	テキスト①
6	1) 訪問看護の対象者の特徴・利用者と訪問回数 2) 訪問看護ステーションに関する規定 3) 訪問看護の利用(利用までの手順・費用) 4) 訪問看護サービスの提供		
	5) ケアマネジメントと社会資源の利用	講義	テキスト①
	7. その他の制度 1) 地域保健・高齢者に関する法制度		
7	2) 障害者・難病に関する法制度 3) 公費負担医療・権利保障に関連する制度 4) 地域・在宅看護の倫理的課題 5) 地域・在宅看護の展望	講義	テキスト①
8	筆記試験(45分)	試験(筆記)	
9	13. 地域・在宅看護実践の場と連携	講義	テキスト①②
10	1) さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし 2) おもな地域・在宅看護の実践の場		
11	11. 地域・在宅看護における安全をまもる看護	講義	テキスト①②
12	1) 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 2) 地域・在宅看護におけるリスクマネジメント 3) 防災対策の指導と災害時の対応 4) 医療機関、福祉機関、行政の健康危機管理と連携 12. 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント		
13	14. 地域・在宅看護における多職種連携	講義	テキスト①②
14	1) 医療専門職との連携 2) 福祉専門職との連携 3) 介護支援専門職との連携		
15	4) 多職種連携からのネットワークづくり (1) 連携の重要性 (2) 地域包括ケアシステムの構築 (3) 看護師に求められる役割	講義	テキスト①②
16	筆記試験(45分)	試験(筆記)	
受講上の注意			評価方法 筆記試験
使用するテキスト ① 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ② 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 参考文献 看護実践のための根拠がわかる「在宅看護技術」第4版 メヂカルフレンド社			